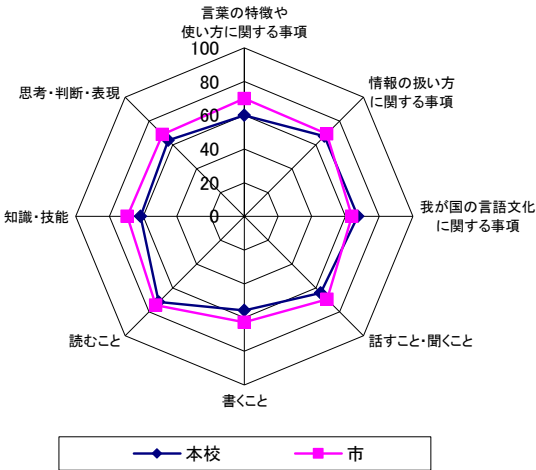


宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	60.0	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	67.3	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	67.3	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	64.1	69.5	71.5
	書くこと	55.8	62.8	67.1
	読むこと	71.8	74.4	73.7
観点別	知識・技能	61.5	69.4	71.9
	思考・判断・表現	63.8	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

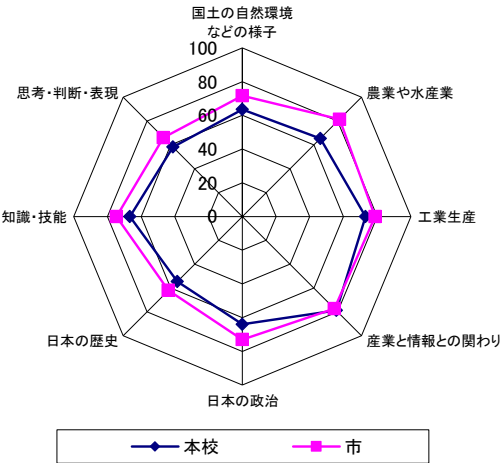
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	●「三字の熟語の成り立ちについて理解している。」の設問に関しては正答率53.8%と市の平均を13.6ポイント下回った。熟語の成り立ちが同じものの組み合わせを選ぶもので、正答は「美術館一新年会」の組み合わせと難問であった。 ●「文と文との接続の関係を理解している。」の設問に対しては、正答率30.8%と市の平均を27.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・昨年同様、熟語の構成について、課題が見られた。漢字の読み書きだけでなく、漢字の意味も併せて押さえる必要がある。 ・「しかし」を使って2つの文に分けて書き直す問題であり、比較的答えやすい問題であり、慣れていないゆえの誤答だと考えられる。順接や逆接等の接続語を用いた文章に多く触れることで、定着を図りたい。
情報の扱い方 に関する事項	○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。」の設問に関しては、正答率88.5%と市の平均を4.7ポイント上回った。 ●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。」の設問では、請求書6.2%と市の平均を8.4ポイント下回った。	・今回の情報に関する問題は、要約する力を求めるものが多い。説明文を読み、順に文章をまとめていく問題に関しては、正答率が高かった。しかし、2つの資料を用いて「目について注意する点を要約して書く」問題に関しては、正答率が低かった。今後は、簡単な文章を読み、その要約文を書くことで徐々に複雑な文章にも慣れさせていきたい。
我が国の言語文化 に関する事項	○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。」の設問に関しては、正答率67.3%と市の平均を3.5ポイント上回った。	・一つの漢字でも、意味を表す部分と音を表す部分からなる漢字についての理解を深めさせる。
話すこと・聞くこと	●「話の内容を捉えている。」の設問に関しは、正答率69.2%と市の平均を7.0ポイント下回った。	・インタビューの学習等、相手の話を聞く活動で、相手の回答を自分の言葉で表現し直して、話の要点を確認することで、話の内容を捉える学習を多く取り入れる。
書くこと	●「職場見学のお礼を伝えるのに、電話がよいか手紙がよいかを、2つの段落に分けて書く」設問に関しては、正答率55.8%と市の平均を9.4ポイント下回った。	・「自分の考えとその理由」と「予想される反論とそれに対する自分の考え」を2つの段落に分けて書く学習を取り入れ、段落の役割について理解させ、書く経験を多く積ませる。
読むこと	○「文章全体の構成を捉えている。」の設問に関しては、正答率63.5%と市の平均を2.2ポイント上回った。 ●「登場人物の心情について、描写を基に捉えている。」の設問に関しては、正答率53.8%と市の平均を12.7ポイント下回った。	・文学教材については、繰り返し読むことで、直接的な言葉では描写されていない部分からも想像力を働かせて心情を読み取ることができるよう、読解の指導を進める。

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	63.5	71.6	67.5
	農業や水産業	65.4	81.5	82.1
	工業生産	73.1	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	78.8	77.2	68.2
	日本の政治	63.9	73.1	77.9
	日本の歴史	54.6	62.0	65.8
観点別	知識・技能	66.7	74.6	74.5
	思考・判断・表現	58.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

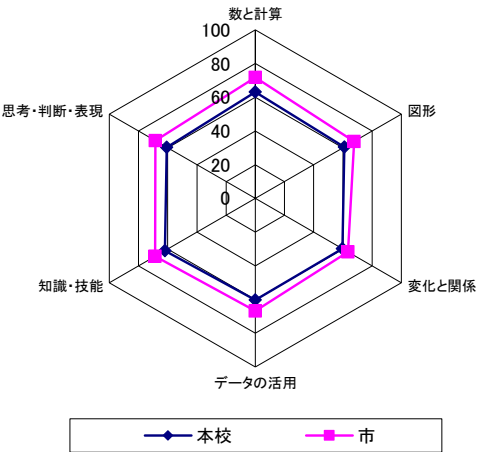
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●「日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っている。」の設問に関しては、正答率19.2%と市の平均を17.9ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・主な平野、川、山地等を、地図やデジタル教材を活用して、繰り返し学習するようにする。
農業や水産業	●「都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、適切な地図を判断している。」の設問に関しては、正答率61.5%と市の平均を18.1ポイント下回った。 ●「カントリーエレベーターについて理解している。」の設問に関しては、正答率59.6%と市の平均を22.9ポイント下回った。	・農作物が多く生産されている県や農作物を管理する施設等について、資料集やデジタル教材で何度も復習する。また、資料から読み取ったことを白地図上にまとめる活動を多く取り入れることで、理解を深めるようにする。
工業生産	●「日本の輸出品の資料を読み取っている。」の設問に関しては、正答率71.2%と市の平均を10.3ポイント下回った。	・資料を正確に読み取れるようにするとともに、それぞれの輸出額は割合だけでなく総額によって変わること気付かせるようにする。同様の資料を繰り返し読み取らせることで、定着を図る。
産業と情報との関わり	○「メディアの特徴を理解している。」の設問に関しては、正答率94.2%と市の平均を2.5ポイント上回った。	・一つの資料を正確に読み取れるようにするとともに、その資料から得られる情報を端的にまとめ、ノートや言葉で表現する活動を取り入れる。
日本の政治	●「日本国憲法について理解している。」の設問に関しては、正答率65.4%と市の平均を11.4ポイント下回った。 ●「基本的人権の尊重について、生活の中の具体的事例をもとに利用している。」の設問に関しては、正答率71.2%と市の平均を13.6ポイント下回った。	・日本国憲法や仕組みについて、教科書や資料集の図を用いて理解させる。また、難解な単語や文章については易しい言葉を使って表現することで、身近なものとして感じられるようにする。
日本の歴史	●「室町時代の文化について理解している。」の設問に関しては、44.2%と市の平均を13.9ポイント下回った。 ●「江戸幕府による大名支配について、適切な見出しを判断している。」の設問に関しては、正答率51.9%と市の平均を14.8ポイント下回った。	・資料から2つのものを比べるときの表現の仕方を教え、定着を図る。 ・歴史上の人物が関わった物や出来事を結び付けて考えさせ、反復練習を行うことで定着を図る。 ・歴史上の事件や出来事等を短い言葉で表す訓練をする。

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	63.1	71.8	76.2
	図形	61.0	67.7	67.8
	変化と関係	59.6	63.4	62.7
	データの活用	60.3	66.7	61.5
観点別	知識・技能	61.9	68.6	70.7
	思考・判断・表現	60.6	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

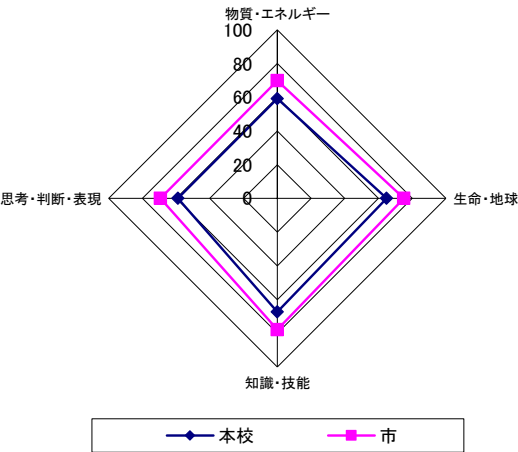
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「真分数+真分数=仮分数(帯分数)で、分母どうしをかける通分をする計算ができる。」設問に関しては、正答率82.7%と市の平均を7.4ポイント上回った。 ●「分数÷分数(約分あり)」の計算の設問に関しては、正答率65.4%と市の平均を18.7ポイント下回った。 ●2つの文字を使った問題では、正答率44.2%と市の平均を16.1ポイント下回った。	・分数の計算では、通分や約分の仕方を指導するとともに、基本的な問題の習熟を図る。 ・数字を使った式だけでなく、文字を使った式を解くことで、文字を用いた問題に慣れさせる。
図形	○「2つの角から三角形の1つの外郭を求める」設問に関しては、正答率76.95%と市の平均を3.0ポイント上回った。 ●「正五角形の作図方法から、円の中心の周りにできる書くの大きさを求める。」設問に関しては、正答率57.7%と市の平均を10.2ポイント下回った。	・角や体積を求める基本的な学習内容を復習し、多くの問題に触れることで習熟を図る。
変化と関係	○「図から面積と数の割合を求めて密度を求める。」設問に関しては、正答率82.7%と市の平均を2.7ポイント上回った。 ●「速さの単位の間隔を理解し、時速を秒速や分速に直す。」設問に関しては、正答率51.9%と市の平均を7.3ポイント下回った。	・
データの活用	○「値に0がある連続量の平均を求める。」設問に関しては、正答率84.6%と市の平均を4.3ポイント上回った。 ●「ドットプロットから、中央値を読み取る。」設問に関しては、50.0%と市の平均を7.8ポイント下回った。	・データの活用では、最頻値、中央値、平均値等の用語が出てくるので、言葉の意味を正しく理解させるとともに、実際のデータを取り上げながら、問題に取り組めるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.2	69.9	67.8
	生命・地球	64.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	67.3	77.8	78.4
	思考・判断・表現	59.0	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「物のとけ方」で「同じ量の食塩とミョウバンを、水に加えたときの溶け方がわかる。」設問に関しては、正答率78.8%と市の平均を6.6ポイント上回った。 ●「物のとけ方」で「溶け残った食塩をすべて溶かす方法がわかる。」設問に関しては、正答率25.0%と市の平均を23.8ポイント下回った。 ●「水溶液の性質」で「赤色リトマス紙のようすから、水溶液の液性がわかる。」設問に関しては、正答率26.5%と市の平均を10.7ポイント下回った。	・「物のとけ方」の問題では、4択問題の選択肢のみを見て答え、表の読み取りができなかったことが分かる。表には、温度を変えた決められた水のかさに、溶ける食塩の力が明記してあるので、表から答えを導くことができるよう、繰り返し指導していく。 ・リトマス紙の問題に関しては、知識があればできる問題である。教科書の覚えるべき内容をしっかりと押さえ、反復練習をして、定着を図る。
生命・地球	○「月と太陽」で「観察カードの月のようすから、月を観察した時刻を推測できる。」設問に関しては、正答率63.5%と市の平均を3.6ポイント上回った。 ●「植物の発芽と成長」で「実験の操作を改善できる。」設問に関しては、正答率40.0%と市の平均を23.6ポイント下回った。 ●「植物の発芽と成長」で「目的に合った対象実験を計画できる。」設問に関しては、正答率57.7%と市の平均を17.5ポイント下回った。	・「実験の操作を改善する。」の問題では、実験の問題点を見つけることと、改善点を短い文章で書かなくてはならない。普段から、文章を単文で書くのではなく、重文や長文を書くことに慣れる活動を多く取り入れるようにする。 ・実験の計画を立てる際に、何を調べるための実験かという課題をはっきりさせ、対照実験を行う意味をしっかりと考えられるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書くこと」への苦手意識を減らすための取組	朝の学習の時間を利用して、月に2回、テーマに合わせた作文を書くことを行い、文章を書くことに慣れるようにする。	「全国学力・学習状況調査」の結果と比較して、無回答率がやや下がった。「書くこと」への抵抗は、やや少なくなってきたと考えられる。
学習後の振り返りの場の設定	授業の最後に、本時のめあてに対する学びの振り返りを行い、自分の学んだ内容や身についたことの確認ができるようにする。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」の設問に対して、肯定回答割合が3年:90.6%, 4年:76.1%, 5年:67.8%, 6年:67.3%であった。6年生を除いて市の肯定回答割合を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○4月の国・県の調査のときと比較すると市の調査結果の方が無回答率が下がったものの、依然として市の全体と比較しても高い傾向にある。文章を書く習慣をつけ、書くことへの苦手意識を減らすために、次年度も朝の学習の時間を活用して作文を書く時間を確保していく。

○国・県・市の結果から、漢字や計算などの基本的な問題が定着していないことが分かる。児童にとって分かりやすい授業を次年度も展開していくとともに、基礎・基本問題の復習できる時間を意識して取り入れることで、確実に理解できるようにしていきたい。